



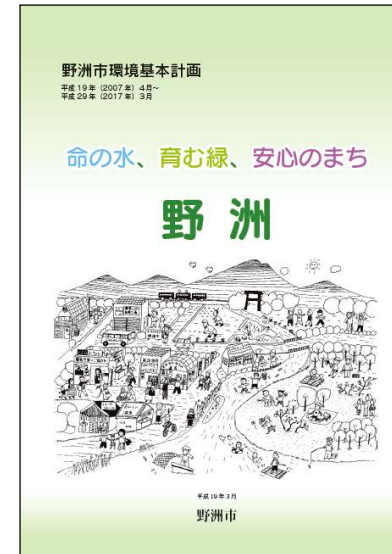
野洲市環境基本計画推進会議 8年間の成果(と課題)の講評

2015/4/24

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
主任研究員 佐藤祐一

本講演の趣旨

- 2007年に環境基本計画が策定されてから8年が経過し、様々なプロジェクトが実施されるとともに、各分野で顕著な成果が上げられてきました。
- 推進会議が実施してきた活動のうち、特に市民が中心となって実施してきたものに着目して、推進会議がこれまで果たしてきた役割や活動の意義についてお話します。
- 主に「できたこと」に着目した評価となります。また個別の活動の話は皆さんの報告に譲り、私は活動全体を通して見えたことをお話します。
- 事前にいただいた報告書をベースに作成していますが、よく知る分野とそうでない分野があり、講演内容にも濃淡があることをご了承下さい。



話の前に

日本（滋賀県）の市民参加の現場視察に訪れた海外（途上国、特にアジア地域）の方々からよく聞かれる質問

「なぜ市民がこれほど環境保全活動に力を入れているのか？」

（どうして行政がやらないのか？）

（どうやったら市民のやる気をひきだせるのか？）

↓
「行政が（お金がなくて）やらないからやっている」
「楽しいからやっている（生きがい、やりがい）」
「地域のことは地域の人がやる」 等々



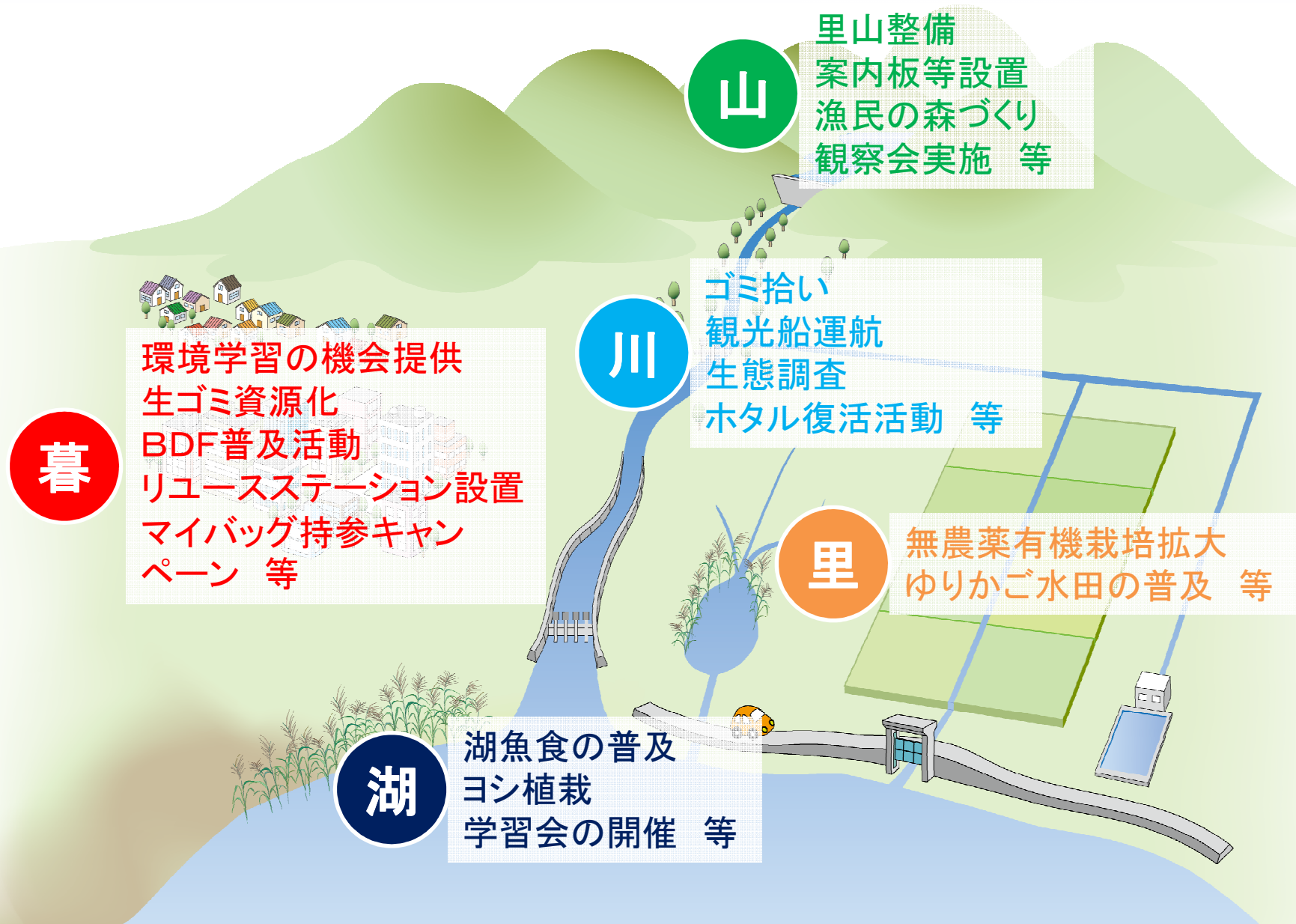
推進会議があげてきた3つの成果

1. 多様なセクター、多様な場をつないできた

2. 問題の根本解決を目指してきた

3. 活動や成果を市内外に浸透・拡大してきた

多様なセクター、多様な場の活動



多様なセクター、多様な場をつないでできた事例

■ 漁民の森づくり 山 + 湖

- 水源となる山を守るため、漁業関係者と生産森林組合が協力して森林整備や植樹を実施
- 琵琶湖流域の土地利用の約半分は森林、山と湖のつながりを理解する貴重な機会



■ 魚のゆりかご水田 里 + 湖

- 琵琶湖から遡上するフナやナマズなどを水田で育て、またそのために減農薬栽培を実施
- 琵琶湖で漁獲されるニゴロブナの概ね10%が「魚のゆりかご水田」で育った魚という調査報告も



多様なセクター、多様な場をつないでできた事例

■ 家棟川の生態調査 山 + 川 + 湖

- 上流～下流～琵琶湖における魚介類の調査を定期的に実施し、課題と対応策を検討
- 市民、企業、行政(市・県)、専門家が協働して調査等を実施
- ビワマスが遡上できる環境づくりに向けた具体的検討も開始



■ ゴミを減らす活動 暮 + 川 + 湖

- 家棟川や菖蒲浜においてゴミ拾いを実施、ゴミが少なくなると捨てられにくくなるという好循環
- さらにゴミの発生そのものを減らすため、マイバッグ持参キャンペーンやリユースステーション設置などを実施



成果1. 多様なセクター、多様な場をつないできた

- 市民・企業・行政・専門家といった「多様なセクター」や、山・川・里・湖・暮らしといった「多様な場」をつなぎ、様々なプロジェクトを実施してきた。
- 行政は対象とする人や物、事柄に応じてセクションが設けられることが多い(いわゆる縦割り→いい面も悪い面もある)。一方市民は課題全体を眺めた上で取り組めるという優位性がある。
- それぞれのセクターができること、できないことをお互いに理解し、助け合う形でプロジェクトを運営していくことが推進会議の大きな強みになる。

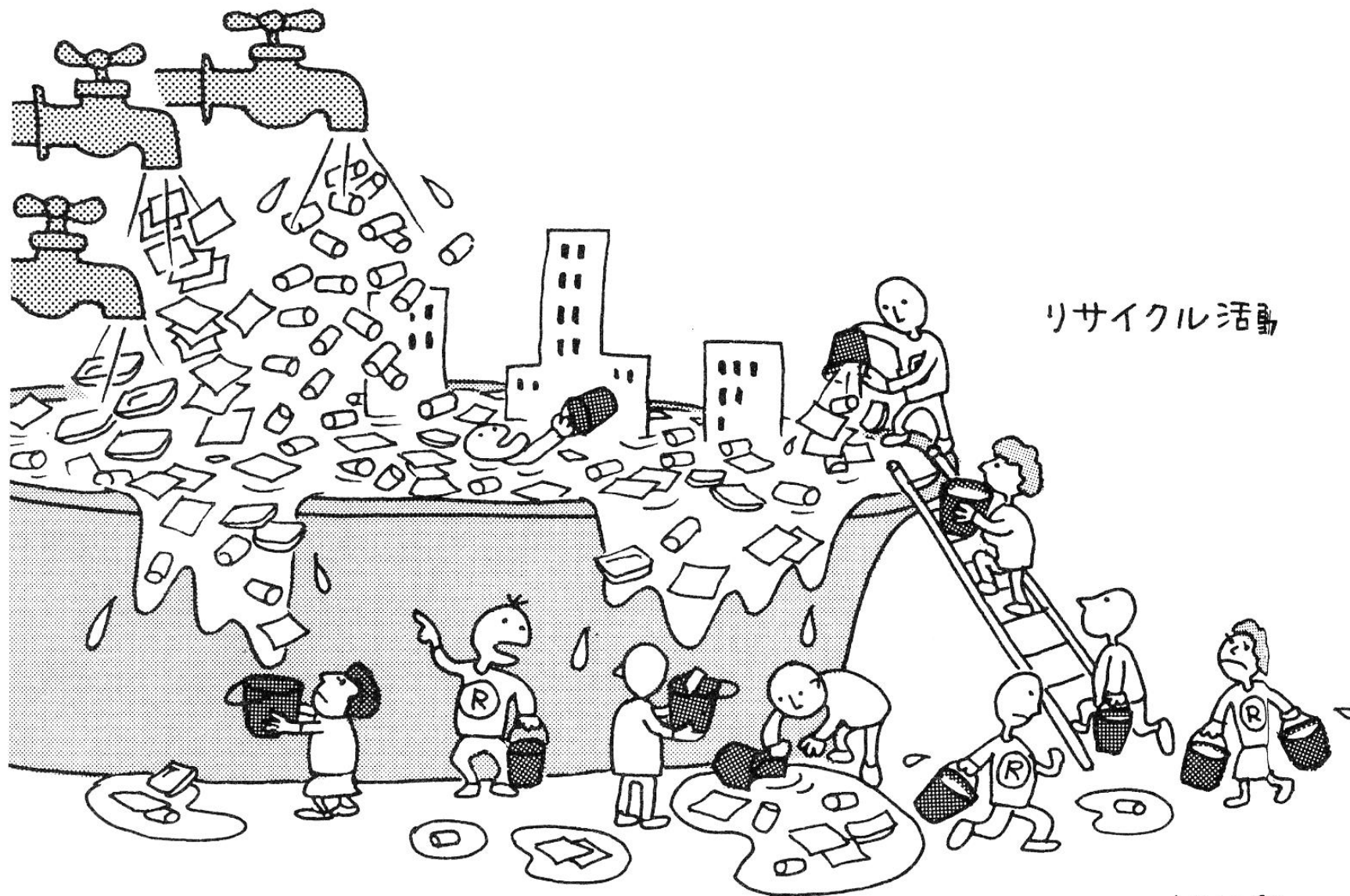


推進会議があげてきた3つの成果

1. 多様なセクター、多様な場をつないできた

2. 問題の根本解決を目指してきた

3. 活動や成果を市内外に浸透・拡大してきた

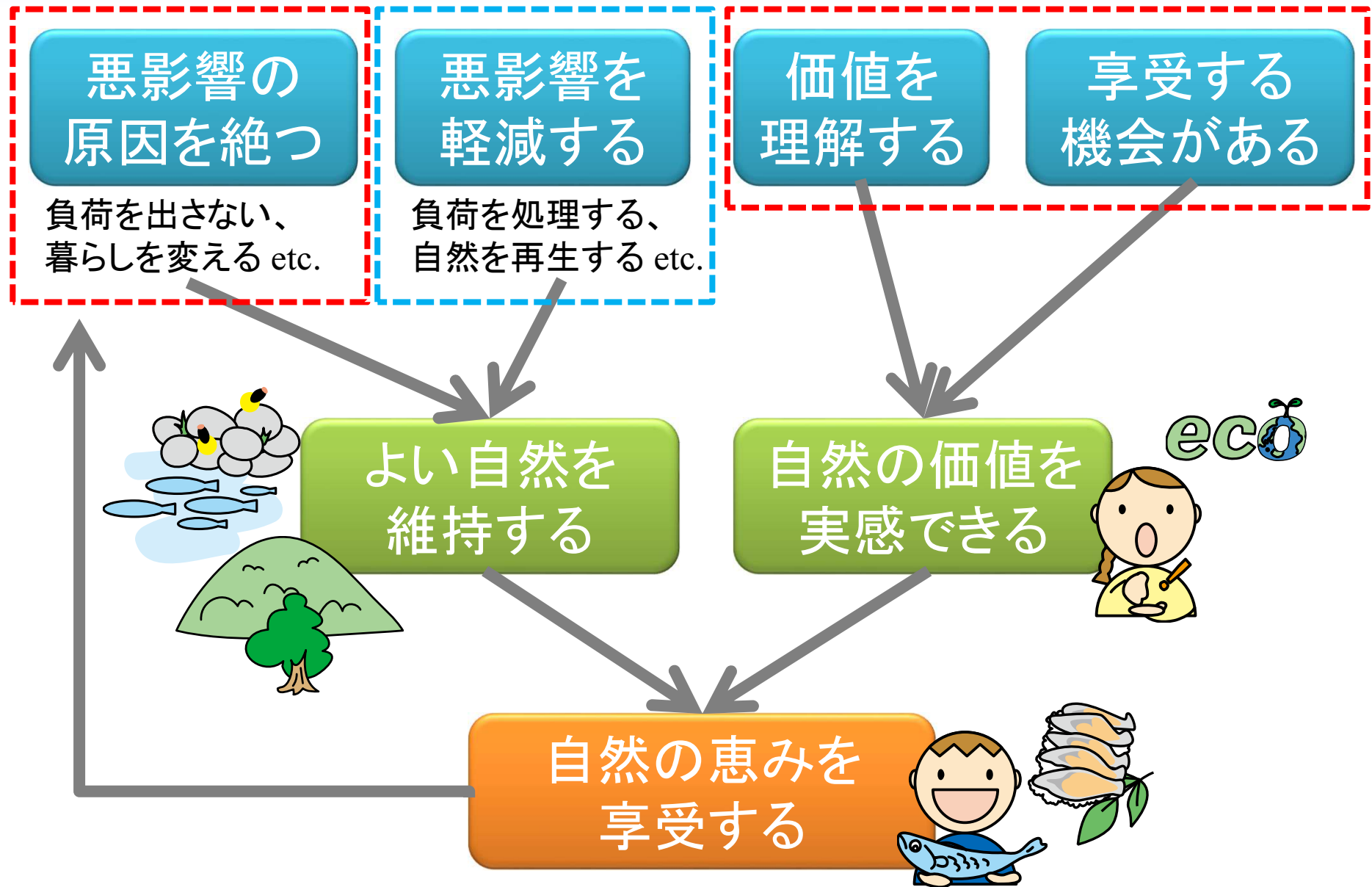


リサイクル活動

「元栓を締めた方が早道じゃないのか？」

High Noon

自然の恵みを享受するために



問題の根本解決(悪影響の原因を絶つ)の事例

■ ゴミを出さない仕組みづくり

- 生ごみ資源化システムづくり(家庭でできる生ごみの堆肥化システムの開発と普及)
- リユースステーション設置(不要品の無償譲渡の場の提供)
- マイバッグ持参キャンペーン(レジ袋削減に向けた普及啓発)



■ 環境配慮型有機農業の実践

- 無農薬有機栽培農業の拡大と技術改良(除草機の開発等)
- 生物多様性の保全につながることを確認(野鳥など)



写真: 中道唯幸氏

問題の根本解決(価値の実感)の事例

■ 学習・観察・教育の機会提供

- みんなで進める環境学習、エコな店ガイドブック作成、森づくり塾、屋形船運航、緑化活動、河畔林創生、田植え稲刈り等体験、砂浜学習、ヨシ植栽体験学習、人形劇による出前講座等、あらゆる場面に市民が参画
- 市民が主体的に計画・実践することで、効果がさらに高まる



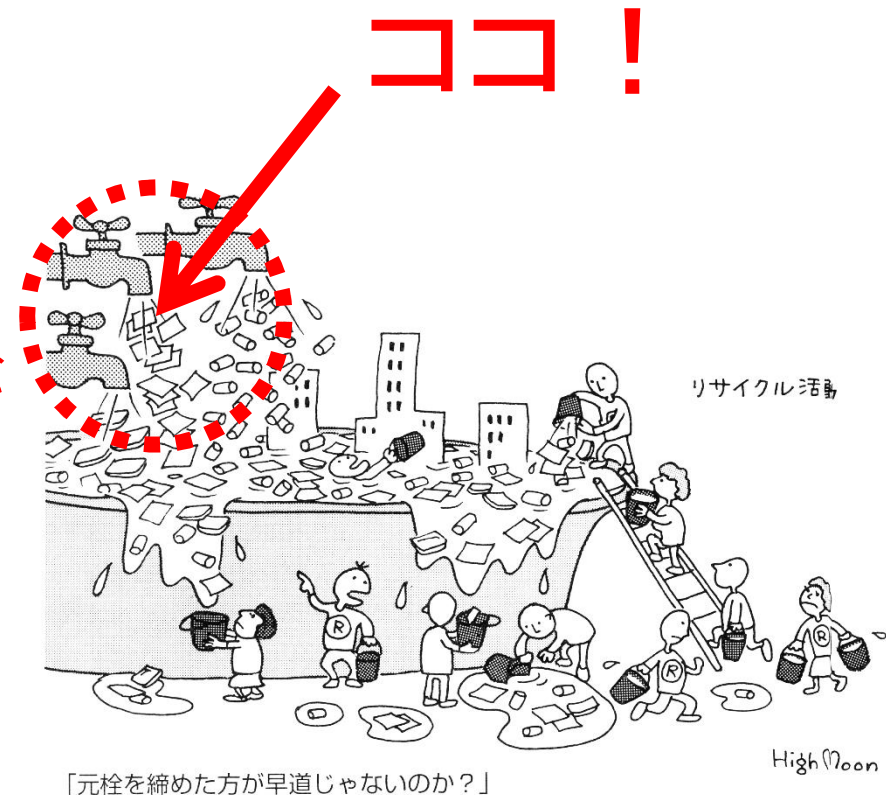
■ 恩恵享受の機会を提供

- イベントや学習会のあとに湖魚料理を食べる機会を提供
- 琵琶湖の恵みを五感で体験でき、環境改善の意義を実感



成果2. 問題の根本解決を目指してきた

- 悪影響の原因を絶ったり、自然の価値を実感できるようにするなど、問題の根本解決につながる取り組みを実施してきた。
- 自然に悪影響を与えない仕組み(暮らし)に変えるのは個々人の意識や行動によるところが大きく、技術では解決につながりにくい。
- 私たちは環境保全を呼びかける側でもあるが、同時に環境に負荷を与えながら生きている。活動を通じた気づきが行動に直結する。



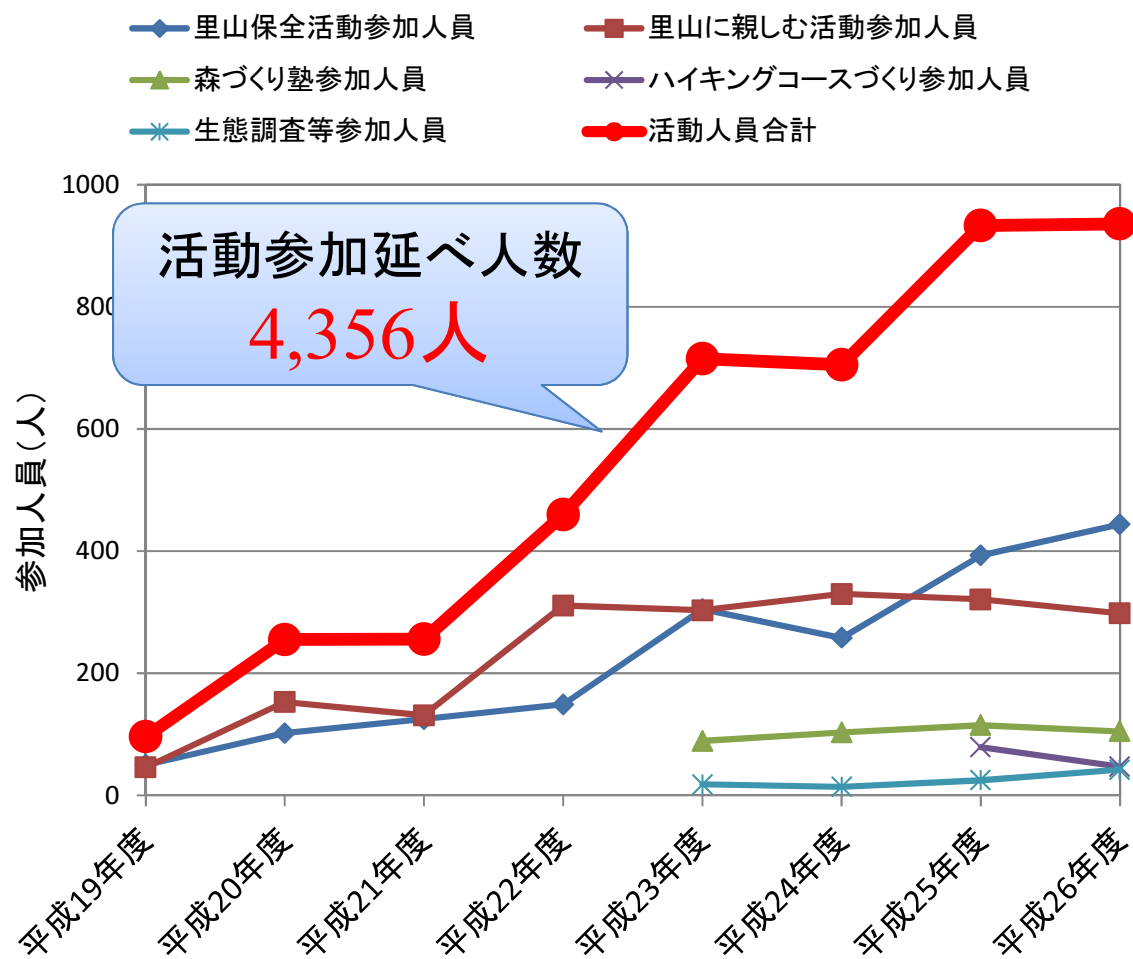
推進会議があげてきた3つの成果

1. 多様なセクター、多様な場をつないできた

2. 問題の根本解決を目指してきた

3. 活動や成果を市内外に浸透・拡大してきた

山 数字(指標)で見る活動の成果例



山道「案内表示板」 24ヶ所
「レスキュー杭」 210ヶ所 設置

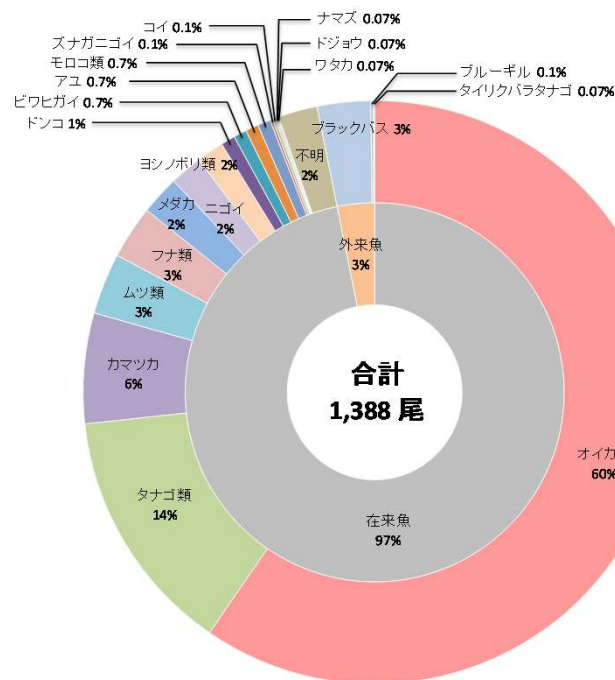


川 数字(指標)で見る活動の成果例



屋形船の乗船者数
約5,000人

ゴミ搬入量
7,000kg以上



家棟川で確認された
在来魚種数
22種
(湖北地方の
清澄な河川に匹敵)



里

湖

数字(指標)で見る活動の成果例



あやめ浜まつり・砂浜学習

1,727人

ヨシ植栽(中主小、他)

3,847人、1,800m²



無農薬有機栽培作付面積

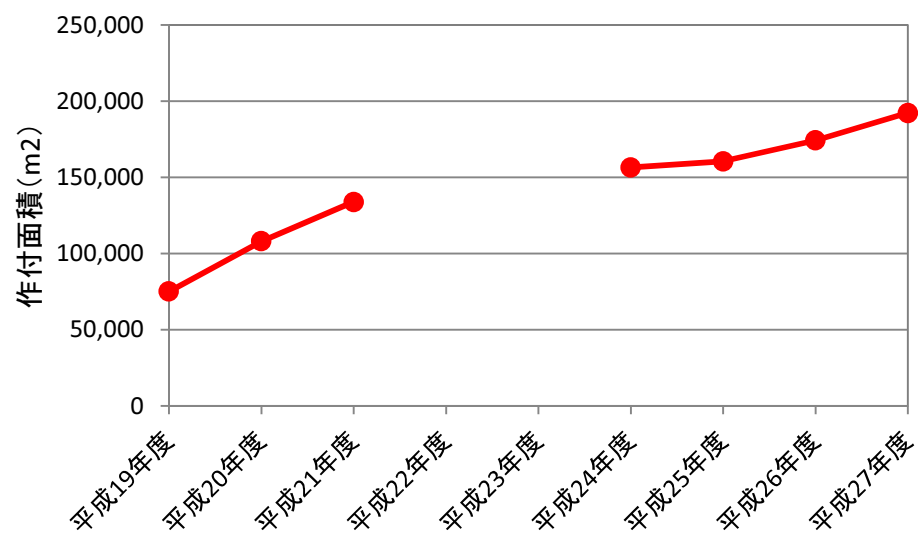
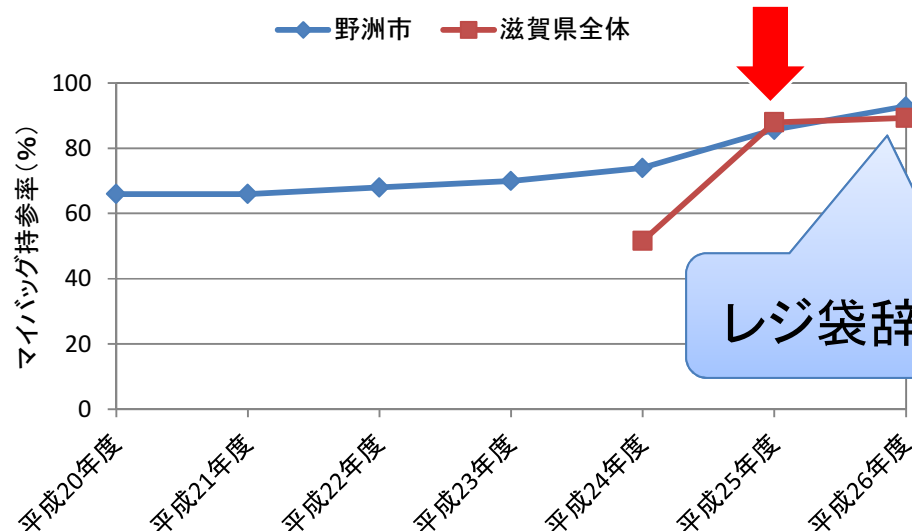


写真: 中道農園(おいで野洲まるかじり協議会Webサイト)

暮数字(指標)で見る活動の成果例

滋賀県におけるレジ袋削減の取組に関する協定開始



レジ袋辞退率 92.9%



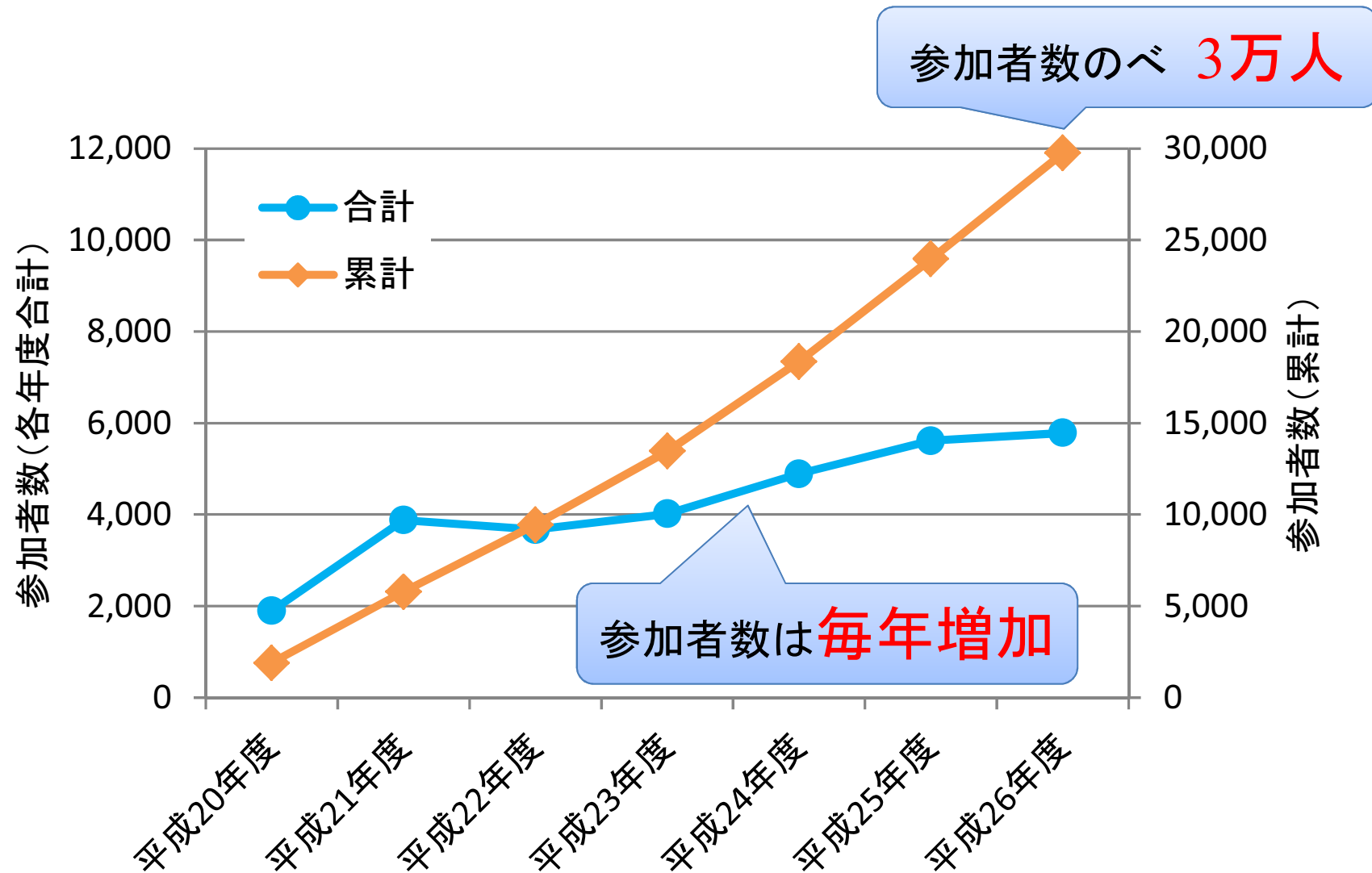
※野洲市(H20-24)はごみを減らそうプロジェクトによる店頭聞き取り調査結果、
 その他はフォーラムしがによるレジ袋削減の取組に関する協定締結事業者の各年度平均値
<http://www.pref.shiga.lg.jp/d/haikibutsu/gomizero/kaimono/rejifukuro-top/top.html>

みんなで進める環境学習
 (環境フォーラム、環境講座等)
 (自治会、保育所、幼稚園、図書館等)

882人



推進会議活動の参加者数の推移



成果3. 活動や成果を市内外に浸透・拡大してきた

- 推進会議が開催した取り組みやイベント等に参加した人数は、**延べ3万人**。また活動は着実に広がっており、**不法投棄の減少、レジ袋辞退率増加などの「アウトカム（成果）」**にも結びついている。
- 「おらが川プロジェクト」の「生物多様性大賞（滋賀県、経済同友会）」や「日本水環境文化賞（日本水環境学会）」、「ごみを減らそうプロジェクト」の「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」など、**取り組みが県内外で高く評価されている。**



今後のさらなる進展に向けて(課題)

1. 世代をつなぐ取り組みにしてい

- 子どもへの教育と見せかけて、実は一緒に来た親への教育
- 関わった子どもが大きくなって、リーダーとして後進を育てる仕組み
- セカンドライフを充実させるための受け皿として機能

2. 環境(エコ)の枠組みから出してみる

- 野洲の山・川・里・湖における「遊び場」を提供
- 「生きもの調査」ではなく「魚の捕り方(投網)講習会」のような視点
- まちづくり、観光、福祉、子育て、アート、、、？

3. コーディネーターを見つける(雇用する)

- 実は多くの地域活動が抱える課題の根っこ
- ある程度のITスキルとコミュニケーション力のある若手
- 野洲の自然まるごと案内役(そして営業役)

話の終わりに

「なぜ市民がこれほど環境保全活動に力を入れているのか？」

(どうして行政がやらないのか？)

(どうやったら市民のやる気をひきだせるのか？)



私の答え:「市民にしかできないことがあるから」

市民がやるから

1. 多様なセクター、多様な場をつなぐことができる
2. 問題の根本解決を図ることができる
3. 活動や成果を浸透・拡大することができる

ご静聴ありがとうございました

